

朗 読 文

長野県の切り花栽培の歴史は長く、戦前にさかのぼります。当時は主に佐久^{さく}地方でキクが栽培されていましたが、現在は各地域でそれぞれキク、カーネーション、トルコキキョウ、リンドウ、カスミソウ、バラをはじめ多品目の花が栽培され、生産地としても大きなシェアを占めるようになりました。

花の栽培が盛んな理由の一つには、長野県の気候が大きく作用しているようです。長野県は山国で標高が全国でも一番高く、したがって紫外線が強いのので日光をふんだんに吸収でき、そのせいで花の色艶がいいのです。『高原を渡るそよ風』と言われるぐらい気候が爽やかで、夏でも湿度が少なくカラツとしており、そんな気象条件が植物の生育に適して日持ちのよさにつながります。つまり、雨が少なく日照時間が多いところへ適度に朝夕の温度差があり、空気が澄んでいることなどが、いわゆるシャッキリした長持ちのする花が育つ土壤として適しているようです。

長野県はまた、花だけでなく果物の生産地としても有名です。モモより少し濃いめのピンクの花をつけるアンズの実は食用、薬用に使われます。アンズの花が満開になる四月中旬には更埴市^{こうしやくし}はピンクに染まるとも言われ、それを見に訪れる観光客で賑わいます。

アンズの他にもリングゴ、アカナシ、モモなど花を楽しませてもらえる果実が多く、豊野町から中野市にかけての国道十八号線は別名アップルラインとも呼ばれ、ドライバーの目を楽しませてくれます。それらの果実は甘味が多くておいしいもの、やはり気候風土に負うところが大きく、花に劣らぬ芳香^{ほうかう}を漂わすのも信州ならではです。

また、サクラ、カタクリ、ツツジ、コスモスと長野県を彩る花は、春夏秋冬を通して絶えることはありません。それは山に囲まれた豊かな自然と北アルプスをはじめとする山々がもたらす清冽^{せいれつ}な水が、花や果実を育てるにはこれ以上ない条件だからです。